

第2回宇部市本庁舎建設基本計画検討委員会 議事録

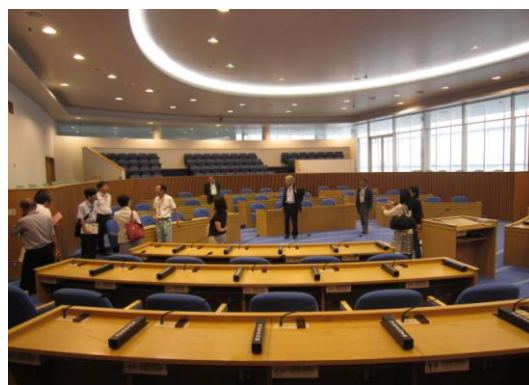
日時/場所 2015年8月19日 8時30分～16時40分 / 岩国市役所、周南市役所(視察)

出席者 検討委員会/白石副委員長、加藤委員、藤川(尚)委員、藤川(修)委員、三村委員、橋本委員、
福田委員、藤井委員、安井委員、杉野委員
宇部市総務管理部/平山次長、床本課長、濱原課長補佐、深川係長、福重係員
(株)日建設計/高木主管

番号 議事

1. (1)岩国市役所視察

- ・始めに会議室にて岩国市担当者より、新庁舎建設の経緯と実際に新庁舎を運用してみたの感想、反省点等の説明を受けた後、維持管理・運営の現状に関することを中心に質疑応答を行った。
- ・質疑応答後、担当者の案内により、庁舎見学を行った。



議場(6階)



屋上緑化



太陽光パネル(屋上)



免震装置(地下)



非常用電源(地下)

番号 議事



売店(1階)



レストラン(1階)

(2)岩国市新庁舎建設までの経緯、質疑応答の概要

平成13年3月に芸予地震発生の際、岩国地域は震度5強。土曜日だったため市役所は閉庁していたが、庁舎内の棚が倒れるなど被害が大きく、これを契機に耐震化するのか建替えるのかという検討が進んだ。その結果から新庁舎建設が決まり、市議会庁舎整備特別委員会の設置、基本構想、基本設計、実施設計を経て、平成17年に着工、平成20年3月10日に完成。その後、5月の連休に引っ越しをして業務を開始した。

【質疑応答を含めた個別項目に対する説明】

- 財源について:全体95億円のうち、51億が防衛関係の国庫補助金、残りが合併特例債の活用。
- 入居部署:年々新庁舎への集約が進み、現在の新庁舎の職員数は約800人程度(24,000㎡)。
※建設当初の想定規模は690人程度→新庁舎に集約される部署が増えたことにより、現在では手狭な状態になっている。
- 多目的ホールについて:非常に好評で、毎日のように卓球やバレーボール、ダンス等に利用されている。朝から夜まで解放しており多数の利用がある。一方では、このホールが1階にあるために、スペースをとられ、窓口が集約できていないという側面もある。
- 仕切りのないオープンフロアについて:市民目線では、見渡しやすいのがメリット。変化に対応しやすいのはメリット。
- 外壁の全面ガラス張りについて:断熱効果が少ないためエネルギー消費量が増える。
- 屋上緑化について:緑化をするとどうしても屋根に負担がかかる。根の力が強くコンクリートに入り込んでしまい、若干ではあるが雨漏りが発生したこともある。
- 駐車場について:190台確保しているが、隣地の市民会館(1400席のホール有)での行事が重なるとすぐに満車になってしまう。数が多いようでも、足りていないこともある。
- 観光案内窓口について:上層階への配置に関する苦情(1階への配置の要望)はない。観光情報を知りたい場合には、来庁されずに電話やネットでの問い合わせが多い。むしろWiFi環境の充実等に関する要望が多い。
- 書庫について:人だけでなく、文書についても増える一方でスペースが不足している。
- 庁舎建設に関するワークショップについて:基本設計中に4回実施。市民の皆さんがよく利用されるスペースについて議論していただき、意見を徴取した。
※意見を活かしたもの:食堂・多目的ホール等。食堂が1階にあることにより職員以外の市民の皆さんも気軽に利用されるようになったと思う。(テナント入居:光熱水費+施設使用料)
※実現しなかった意見の例:公園に川を。小高い丘を作る。広場にステージを。噴水を設置等。
※WS実施の前提として、実現するしないを考えずに幅広く自由な発想で意見を出し合ってもらったため、当然実現したものもあれば、しなかったものもある。そのことについての苦情・批判等は特になかった。

番号 議 事

2. (1)周南市役所視察

・現在、「周南市庁舎建設実施設計」を策定中の周南市を訪問し、周南市担当者より、新庁舎建設の検討経緯や検討体制、現在の検討状況の説明を受けた。その後、「3次元デジタル空間データによる新庁舎のイメージ(案)」の動画を上映し、基本設計の内容を中心に質疑応答を行った。



(2)周南市庁舎建設の検討状況、質疑応答の概要

- 仮設庁舎の改修費用(旧近鉄松下の利用):事務スペース用のフロア改修等で 80,000 千円程度。テナント料が 200 万円/月(税抜)。同じ規模の仮庁舎をリースする場合は 4 億円程度かかると思われるので、それよりは、一時的にでも中心市街地の空き店舗を使用することでいい影響が出るのではないかとの判断から決まった。市民委員会でも、同等の金額になってもいいので近鉄松下など民間施設の活用を検討してほしいとの提言が出された。
- 工事中の臨時駐車場として使用する市民館跡地:一部は隣接の保健センター用駐車場として使用することも考えられるが、新庁舎建設後の活用方法については未定。
- エスカレータを設置しなかった理由:見通しのよい窓口空間を作ったのに設置すると見通しが悪くなること。また、メンテナンス費用もかかることから採用しないこととした。
- 待合室が広い(広すぎる)ことのデメリット(順番がわかりづらい等)解消策:受付番号案内システム等の工夫を今後考えていく。
- 市民利用会議室:市民館解体に伴い、館内にある会議室の代替機能として設置。市全体を見て増える訳ではない。収容人員は最大 50~60 人。
- 多目的室:収容人員は 100 人程度。ワークショップ等、市民を含めた大人数の会議や期日前投票等の臨時窓口を利用することを考えている。職員利用会議室と共に休日・夜間等で業務に使用しない時間は貸出す予定。
- ガラス張りの採用:特に通りに面した 1 階部分については、中が見えることで利用を促進し、にぎわいを生み出したいとの意図からガラスを採用した。バルコニーの設置により、日射が直接室内に入らないような工夫をすることで温度上昇を抑える。
- オープンフロアのプライバシー配慮:カウンターに相談ブースを設ける。共用の相談室も設置。
- ワンストップに代わる工夫:現在も市民課が保険年金手続きの一部や税証明等ある程度総合窓口的な役割を果たしている。ライフイベント(死亡・出生・転入・転出等)に関わる手続きについては、市民課をできるだけ総合窓口化することで対応し、向かい側に福祉事務所を配置して福祉サービスのコーディネートをやる。この2つを 1 階のワンフロアで完結させる配置とした。
- 3次元デジタル空間データ(VR):基本・実施設計業務委託の仕様を含めた。変更や編集も可能。基本設計の平面を固めるタイミングで作成。特別委員会の説明時に使用した。計画をイメージしてもらいやすいことから採用。
- 人口:14 万 8 千人弱、職員数:1300 人。
- 災害対応:免震構造。機械室を最上部に設置(海拔 14mのため津波が来ることは考えにくいだが・・・)
- 吹き抜けの手摺の安全性:標準的な高さ(1500 mm)を確保。
- 併設施設:売店、銀行窓口(指定金融機関を会計課に併設)、ATM。

番号 議事

- 地下の利用:免震層を利用して排水槽設置程度。
- 災害用備蓄:庁舎棟西側に屋外倉庫を設置。平屋。上部を公用車駐車場として利用。
- 中心市街地活性化策:駅ビルの建替え。CCC(TSUTAYA 事業等展開)が図書館・カフェの併設等予定。庁舎との一体的整備ではないが、歩いて行ける距離でもあり相乗効果を期待している。
- 新庁舎のアピールポイント:「シビックプラットホーム」岐山通りに面した低層の建物を追加し、駅からつながる街のにぎわいの核となるように市民利用機能を中心に配置したこと。プロポーザルでの提案。
- 現在の分庁舎の扱い:保健センターと消防庁舎は、耐震性があることや業務内容を考えて集約せずに継続利用の予定。将来的な人口減によりスペースが空いた場合には集約を考える。市民交流センターは駅ビルに残す(新駅ビルに包含)。
- 将来の増減を見据えた執務スペースの考え方:外注した執務環境調査により必要面積を算出。余裕をもった設定にはしていないが、ワンフロアのため、机の配置の工夫等により多少の職員増には対応できるのではないかと考えている。

以上